

- クマの足跡や糞などの痕跡は、その場にクマが出没したことを示す証拠です。
- また、クマの目撃情報を現地で確認する際に、痕跡を探してクマの出没を判断する事があります。
- しかし、クマの人身被害の報道などによりクマに対する関心や警戒心が高くなると、クマかもしれないなどの思い込みから、見間違い情報が増加します。
- そこで、県内で撮影されたクマや他の野生動物の痕跡の写真を使った、痕跡の見分け方マニュアルを作成しました。

作成日 令和7年10月28日

更 新 令和7年11月20日

山口県自然保護課

山口県立博物館

山口県農林総合技術センター

ツキノワグマの痕跡 ～足跡～

- 歩行中の足跡として、前足は肉球の前半分だけ、後足は踵まで全体の足跡が多い。
- 前足は丸形、後足は細長（三角形）となる。
- やわらかい土の上では、5本の指跡と爪の跡がはっきりつく。

ツキノワグマ（前足）



掌の切れ目より前半分をつけて歩く。

ツキノワグマ（後足）



後足全体をつけて歩く。

平均足サイズ

	足長 cm	足幅 cm
前足	13.5 (9.0～20.0)	9.2 (7.0～13.0)
後足	15.1 (10.0～20.0)	8.5 (6.0～14.0)

※令和4～6年度に県内で捕獲・計測された全長100cm以上のツキノワグマ144頭（平均：全長130.2cm、体重58.6kg）



田畑など軟らかい土は、5本の指跡と爪痕が残りやすい。



水田から道路へ



前足と後足の足跡

他の動物の足跡



イヌ科（キツネ、タヌキ、飼犬など）は爪の付け根が湾曲する



有蹄類の足跡

- 大小2列の足跡は、いずれも有蹄類
- 上列の大きな足跡は、複数頭の有蹄類が足跡を重ねて縦列移動したため大きな足跡に見える



アライグマは指が長い



イノシシ



拡大写真

- 複数頭の有蹄類が足跡を重ねて縦列移動したため大きな足跡に見える

- ※1 時間の経過とともに足跡は風化し不明瞭になる
(いつ頃の足跡なのかは推定不可)
- ※2 地面の質によっては足跡は残らない
(足跡がないから居ないということではない)
- ※3 動物によっては足跡を重ねることがある
- ※4 泥や雪が足裏に圧着し実際以上に大きな足跡になる場合がある

ツキノワグマの痕跡 ～糞～

- 獣臭くない（果実を食べたあとは、ジャム状でフルーティーな香り）
- ソフトクリーム状になるか、自重で歪む形状になる
- 特定の場所に糞はしない



タケノコ食害の糞（5月）



食べ物によっては臭う（5月）



ヤマザクラの種子（6月）



梨食害の糞（7月）



果樹園付近の糞（8月）



民家屋根の糞（10月）



クロキの種子（10月）



果樹園付近の糞（10月）



カキ食害の糞（10月）

他の動物の糞

○ 溜め糞型

特定の場所に必ず糞をする。家族内の共同トイレ

- 親指ほどの太さの糞が何個も積みあがり、新鮮さの異なる糞が同時に見られる。
- よく通る移動経路上に形成される（その場所に意図が感じられる）。



アナグマ



タヌキ

○ ランドマーク型

目立つ場所に単独の糞

※ 一般の人でも目に付くため通報されがち。

- 切株や草の上、橋の欄干、マンホール上、丘状地形の頂上などにされがち。
- 齧歯類の毛や鳥類の羽毛などが混じることがあり、先端が尖りがち。



テン、イタチ、キツネ

○ 糞粒型



シカ

- 俵型の糞粒をまき散らす。



イノシシ

- 複数の糞粒が押し固められた形状となる。

○ 特徴なし型



サル

- 大きな糞ではクマと紛らわしい場合がある。
- 人間の糞便の臭い。



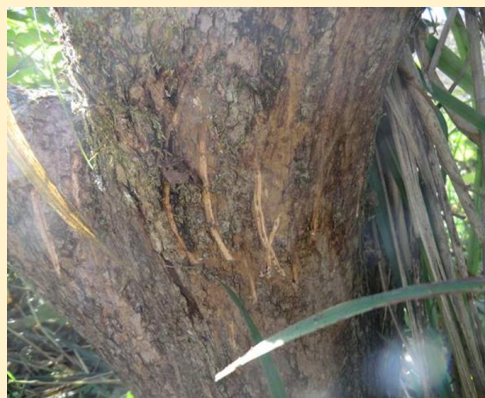
- 大きな糞ではクマと紛らわしい場合がある。

アライグマ

ツキノワグマの痕跡 ～爪痕～

○ ツキノワグマ

- 平行な5本の傷
- 登るときは、爪を樹皮に食い込むため、短い爪痕
- 降りるときは、爪でブレーキをかけながら滑り降りるため、長い爪痕



○ シカ

- ランダム方向の傷は雄シカの角擦り痕
- 下から上に削った跡が残る（クマは上から下）
- 角の高さより上に傷はつかない



- 木の成長に伴い、傷幅が広くなる傾向
- いつ付けられた傷か、時期の推定は困難

ツキノワグマの痕跡 ～食害～

○ クマ棚

- 木の上で実の付いた枝を手繰り寄せ、枝が折れて集まり棚状になる。



- 棚にならずに枝がぶら下がったり、地面に枝が散乱することもある。



- カキの木は折れやすい。

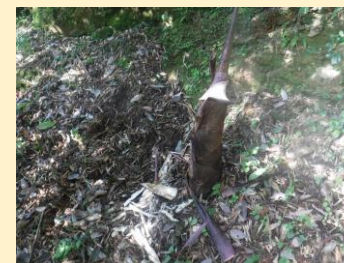


- 折れた枝に残る爪痕



○ タケノコ

- ある程度伸びた稈の真ん中を折って食べる。
- 根元と穂先が残るため、イノシシやサルと判別がつきやすい（イノシシは地面を掘り、サルは先端を折り皮を剥いて食べる）。



○ 果樹園、養蜂

- リンゴやナシは、芯を残す。



ツキノワグマの目撃情報 間違えやすい動物

○ ツキノワグマ

- ツキノワグマの名前の由来である胸の三日月形の白い斑紋は、個体ごとに違うため、個体識別に活用される。



※「大きくて黒い動物を見た」という目撃情報のうち、近年は、走行中の車からの目撃情報が多く寄せられている。

○ アナグマ

目撃者に毛の色を確認した際、「茶色っぽい動物」と答えられたら、アナグマの可能性はある。



○ イノシシ

「大きくて、黒っぽい動物」として見間違えられる事もある。



※ クマに関する危機感から、「クマに違いない」という思い込みや、「クマかもしれないので念のために」という情報提供もあるので、目撃者からは特徴をよく聞き取り、他の動物であれば、クマではないと否定することで、安心感が生まれる。